

# 放射線災害医療サマーセミナー2017 活動報告

## 1 概要

---

日程 ; 2017 年 8 月 21 日 (月) ~26 日 (土)

受講者 15 名

## 2 長崎大学参加者

---

講師 : 山下俊一教授、松田尚樹教授、タチアナ・ログビッチ特任研究員

川内村フィールドワーク実習調整 : 福島芳子助教

富岡町フィールドワーク実習調整 : 折田真紀子助教

連絡担当 : 林田直美

## 3 実施報告

---

2014 年より開催している放射線災害医療サマーセミナーも今年で 4 回目となった。今回は、北は秋田県から南は鹿児島県まで、全国からの看護学部学生 (大学院生)、医学部生、薬学部生 15 名が参加した。

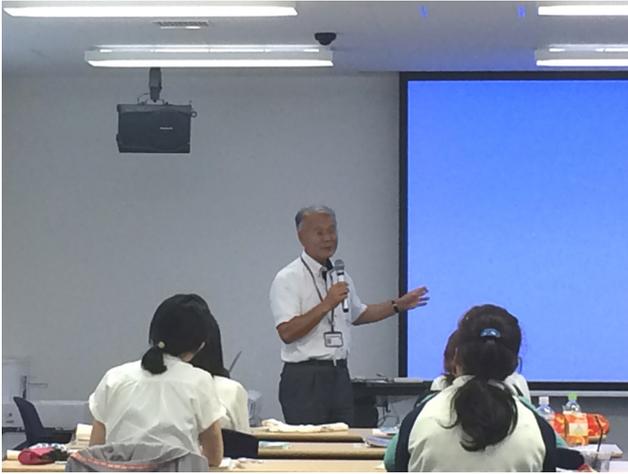
セミナーの前半、第 1 日目~3 日目には福島県立医科大学で講義、実習が行われた。長崎大学からは、実習 1 日目に山下教授が「未来への遺産—広島・長崎・チェルノブイリから福島復興に向けて—」と題し、また、2 日目の早朝にタチアナ特任研究員が「チェルノブイリ原発前後から現状まで」と題して講義をおこなった。2 日目の午前中の最後には、松田教授が放射線基礎について講義後、引き続いて放射線測定実習を担当した。2 日目の午後は、福島県須賀川市に移動し、福島県民健康調査の一環として実際に行われている甲状腺検査の検査会場で、福島県立医科大学の講師より、「原発事故後の福島県内における甲状腺超音波検査について」の講義を受けた後に、実際に甲状腺検査会場を見学した。3 日目は再度福島県立医科大学において、福島の現状や健康問題、また、メンタルヘルスやリスクコミュニケーションについての講義があった。

セミナーの後半は、フィールドでの学習が主であり、4 日目には東京電力福島第二原発を見学した。5 日目のフィールドワークは、本年度初めての試みとして、参加者は 3 つのグループに分けられ、それぞれ川内村、富岡町、飯館村の 3 地域で実習を行うとともに、それぞれのフィールドに過去のサマーセミナーの修了生がチューターとして参加した。長崎大学はこのうち川内村、富岡町のフィールドを担当し、川内村は福島芳子助教が、また、富岡町は折田真紀子助教がそれぞれ調整・引率を行った。このうち、川内村フィールドでは、長崎大学地域医療枠の学生 3 名が参加し、合同で実習が行われた。

最終日は郡山市に集合し、福島県立医科大学の講師より「災害後のコミュニケーションとは？」について、最終講義を受け、その後、それぞれのグループごとに、フィールドワークで学んだことや感じたことを発表し合い、質疑応答を行った。

今回も各講師より、参加者の短期間での著しい成長が指摘された。また、フィールドワークに参加したチューターに会い、セミナー終了後も確実に成長していることが実感でき、本セミナーが地道な活動でありながら、確実に人材育成つながっていることを感じた。

(林田直美)



講義（山下俊一教授）



講義（タチアナ・ログビッチ特任研究員）



放射線測定実習（松田尚樹教授）



川内村フィールド実習



富岡町フィールド実習



飯館村フィールド実習